

プレスリリース

(under embargo till April 8, 18.30hrs. CET)

EUスペースポート・レーリースタット

官民共同プロジェクトチーム、スペースポート・レーリースタット開発を発表

アムステルダム周辺地域、レーリースタット市、2011年4月8日（金） - 本日、国際宇宙旅行協会（ISTA）主催の、有人宇宙飛行50周年記念イベントで、商業宇宙飛行の拠点を、官民共同でオランダ、アムステルダム地域に建設する計画が発表された。計画実現に向け、企画、環境法規、安全基準、地域全体の経済効果などの調査を、宇宙港開発プロジェクトチーム（SDWG）が担当する。第一回調査結果は、今年10月に明らかになる予定。EUスペースポート本部には、レーリースタット空港が提案されている。

現在、世界各地で公共予算削減が報道される中、需要が伸びている宇宙事業が、これまでの公共事業形態を変えようとしている。新たなタイプの宇宙基地建設計画が、西ヨーロッパで進行中だ。ヨーロッパの混雑を極める空域に、宇宙基地を建設するという斬新な試み。オランダとドイツの宇宙科学研究施設を背後に構えるオランダ、レーリースタット空港が、宇宙飛行の定期便を運行するヨーロッパ初の宇宙港を目指す。それに加え、時間とお金をバケーションに使う比重が世界で最も高いヨーロッパという土地柄、観光宇宙飛行がこのEUスペースポートのもう一つの最大目標となるだろう。

官民団体からなる宇宙港開発プロジェクトチーム（SDWG）にとって、レーリースタットに宇宙港が存在するメリットは高い。チームの中には、EUスペースポートから宇宙飛行を運営する会社として、レーリースタット市、レーリースタット空港、スキポールグループ、OMALA開発グループ、欧州宇宙機関、レイノルズ・スミス・アンド・ヒル社（RS&H、米国宇宙基地エンジニアリング・環境調査会社）、スペースリンク社の名があがっている。SDWGはさらに、オランダ政府、近郊の宇宙工学研究室、デルフト工科大学、アムステルダム大学、ライデン大学国際航空宇宙法研究所などとの協力も促進中だ。

レーリースタットを拠点として選んだ、宇宙飛行運営会社のスペースリンク社は、

スペースポートおよび運行便に、カーボンニュートラルとなる施設を施し、地元の風力原動機のグリーンエネルギーを使用する予定だ。米国のエンジニアリング会社、RS&H社は、空港とその周辺地域における技術および環境調査を行う計画をしている。また、ISTA は、この「宇宙基地」コンセプトが経済・行政に及ぼす効果の調査を行う。

「商業・科学目的の宇宙産業開発が、急成長している。」と、マルグレート・ホルセンベルク・レーリースタット市長は語る。「これは、巨大な資本が動く産業。レリースタット市にとっては、宇宙活動の実現に参加出来るという、素晴らしい機会です。私たちは、民間投資家の資本協力を得て、レリースタット空港が宇宙基地の国際ネットワークの先駆けとなる計画を後押しします。この新事業をの母体となる行政区であること誇りに思います。SDWG の調査結果が楽しみです。」

スキポールグループ・レリースタット空港エリック・ラーヘルウェイ代表は「レリースタット空港は、宇宙飛行を運営するという新たな事業に、最も適した場所です。ここには、ビジネスとして拡張するスペースもあり、飛行ルートを北海上に配置することで、騒音や環境の問題も回避できます。ゆくゆくは、新型クラス航空機で、ここから世界のあらゆる場所をほんの数時間で結ぶことも可能でしょう。将来、アムステルダムの周辺地域が、あらゆる商業宇宙飛行のヨーロッパの中心地になることもできるのです。」

「今日、我々は長い旅の第一歩を踏み出します。」と、ロナルド・ハイスター ISTA 所長は語る。「4世紀前に私たちの先祖たちが、船を造り、水平線を超え、東そして西インドへの航海ルートを確立していったように。この旅は何年もの年月を要し、しかしもたらず結果は定かではない。それは承知しています。しかし、新しいビジネス、ハイテク分野の雇用創出、全く新たなタイプの宇宙産業、そしてヨーロッパの中心に宇宙旅行業を発展させるという展望には、抵抗しがたい魅力があります。」

「何も書いていない板のようなものです。」と、スペースリンク社総支配人 チャック・ラウダー氏は語る。「手本にするビジネス・モデルなど存在しない、企業家にとって本物のフロンティア。法的な面では、商業的な宇宙活動を規制する国内・国際法は、今ようやく形をとり始めてきたところです。今は、最新鋭の技術、将来を見据えた政策、最先端ビジネスの集まりでしかありません。リスクなくして、革新などありえない。彼らは、自らの限界に挑戦するパイオニア達です。」

SDWG は、6ヶ月後、準備企画、環境法規、安全基準、提案された商業宇宙飛行事業の経済効果についての調査結果を出す。その際には、関心をもつ団体を対象にワーク

ショップやパブリック・フォーラムも開く予定だ。

商業宇宙飛行について

1865年、ジュール・ヴェルヌが小説「月世界旅行」で、3人の登場人物が宇宙旅行をするという空想物語を描いた。ほとんどの人達に、宇宙どころか、空を飛ぶことさえ想像しがたかった時代だ。20世紀に入り、ヴェルヌの空想力に魅了された人類は、宇宙に向けての最初の一步を踏み出した。航空・宇宙飛行術の発展に伴う革新技術、現在我々が知る世界を形作り、世界中の人々の生活を豊かにしていった。現在、我々は21世紀の商業宇宙飛行が可能にする、新しい交通手段の黎明期を目撃している。

20世紀は、宇宙時代が開幕した時代。今世紀は、商業宇宙飛行術が熟成期を迎えるだろう。ビジネス界の有能な人々の先見の明が、今、宇宙産業を大きく成長させている。現在、商業宇宙基地、訓練センター、宇宙船などが、世界各地で開発、建設される中、商業宇宙産業の投資家も持続的に増加している。

国際宇宙旅行協会 (ISTA)について

商業宇宙飛行船の開発、市場確保、宣伝、そして科学の革新を進めるためには、それに見合う収益が必要になる。それには、消費者の意識を高めるだけでなく、持続性のある世界そして宇宙産業に価値を見いだす個人投資家を注意を引くことが欠かせない。今、宇宙飛行、宇宙トレーニング、宇宙貨物、宇宙ホテルといった、全く新しい形態のビジネス「宇宙経済」が誕生している。

宇宙産業は、その経済価値が増えるに伴い、消費者主体の産業に変わりつつある。投資家らに認識された、効率的に機能する独立組織が、持続性のある方法で、宇宙産業の名声を保ち、経済価値を最大限に伸ばす必要がある。これらの役割を果たすのが、ISTAであり、世界中の消費者関連の宇宙活動を焦点にしている。商業宇宙産業の膨大な潜在力を背景に、ISTAは創世記から成熟期への発展を目指している。

さらに詳しい情報は、以下の連絡先にお問い合わせください。

International Space Transport Association, Jacques Happe, Head of Press, j.happe@istaspace.com, +31-6-55 111 975.

City of Lelystad, Dick Nauta, Press Officer, d.nauta@lelystad.nl, +31-6-51 85 33 54.

High resolution pictures (free of rights) and press information: <http://www.istaspace.com/13/press-office/>

For more news on ISTA please visit www.istaspace.com.